

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870201195
法人名	社会福祉法人
事業所名	今治市社協グループホームゆいの里
所在地	愛媛県今治市大三島町野々江2 4 3 5 - 1 4
自己評価作成日	平成27年6月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年6月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・昨年度再構築した「笑顔育むゆいの里」という基本理念をスタッフみんなで常に意識し合いながら、「自分らしさを大切に」「思いを共有する」「笑顔にふれ合いながら家族・地域とともに過ごしていく」という基本方針に沿った個々へのケアを実施しながら、前年度は特に「自分らしさを大切に」という事にケアのウエイトを置きながらチームとして統一した支援を実施していました。今年度は昨年度の自分らしさをさらに自覚して頂ける様、本人の思いに耳を傾け、スタッフも一緒になって同じ時間を過ごす事で思いを共有でき、住み慣れた地域での交流・馴染の環境（家族や友人・知人等本人を取り巻く当たり前の環境）を少しでも感じて頂きながら笑顔の絶えない「ゆいの里」にしていきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●台所に立つことに遠慮がちだった利用者に「みなのコップを集めてくれませんか？」とお願いしたり、洗ってもらう等、台所仕事にかかわるような場面作りに工夫し、感謝の気持ちを伝えるよう取り組んだ事例があり、現在は、ご自分から「何かしましょうか」と台所に入って来られるようだ。調査訪問時には、台所仕事を終えた利用者に、職員が「ありがとう、お陰で助かりました」とお礼を言っていた。
●地域の方がよくお参りする、利用者にも馴染の場所である近くのお大師さんにも出かけられるよう支援している。
●浴室の入り口には、温泉に浸かってのんびりしている絵を貼って、利用者が入浴をイメージしやすいように工夫している。
●各部屋には、コルクボードを設置して外出時やイベント時の写真を貼って、ご家族来訪時の話のきっかけにもなるよう工夫している。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

[記入方法]

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 今治市社協グループホームゆいの里

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏名

田坂恒輝

評価完了日

平成27年6月10日

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) ・昨年(平成26年)、基本理念をスタッフみんなで再検討し、 新たな理念として「笑顔育むゆいの里」を玄関とフロアの見 える場所に掲げています。自分らしさを大切に、その人の思 いを共有し、やさしさ、笑顔にふれあいながら家族、地域とと もに過ごしていくという基本方針のもと、スタッフ一丸となって 支援させて頂いています。	
			(外部評価) 利用者の入れ替わりや高齢化に伴い、昨年理念について見 直した。ミーティング時に、職員個々が「大切にしていきたい 思い」「自分ならどう接してほしいか」「どんな事が不快である か」等について話し合い、「笑顔育むゆいの里」と理念をつ くっている。理念とともに、3つの基本方針をつくり、玄関と居 間に掲示している。管理者は、利用者に声をかける時には、 「返事を焦らず、一呼吸置いて、利用者が主体になるように」 と指導している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) ・年間を通して、地域の行事や催物に参加しています。ま た、夏祭りや地域合同の消火避難訓練では地域の方々にも 参加して頂き、施設内を見学して頂いたり、マンドリンコン サートやのど自慢大会などでは、地域の「民謡の会」の皆さ んや保育所の園児と一緒に歌ったり踊ったりしながら 世代間交流の場としての役割を担っています。	
			(外部評価) 天気の良い日には敷地内を散歩等しており、近所の方と挨拶 等している。「とんど祭り」や「お田植祭」等、利用者にとっ てなじみ深い地域行事には、出来るかぎり出かけられるよう 支援している。毎年7月に行う法人全体の夏祭りには、地域 の多くの方の参加があり、ボランティアの協力もある。中学生 の職場体験を受け入れたり、職員が、高校生の福祉教育の 講師として協力することもある。福祉教育の一環で事業所に 実習に来た高校生が、年末には大掃除に来てくれるようにな っている。法人では今年、「認知症サポーター養成講座」 を計画しており、第1回目は、7月に地域の集会所で開催す る予定となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) ・年に2回ゴミ拾いウォーキングとして、職員が地域へ出向 き、ウォーキングしながらゴミを拾ったり、認知症の勉強会や 介護教室、今年度は特に認知症サポーターの養成講座等 を通じ、地域の方々に認知症の理解と介護、包括的なサ ポートシステムについての勉強会を予定し、少しでも地域の 方々に理解し、協力して頂ける様な体制作りを行っています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し 合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活 かしている	(自己評価) ・行事や利用者さんの状況を報告したり、困難事例や状況 判断に迷う事例等の検討の場としています。また、みんなが 利用できるようお大師マップの作製を行ったり、災害時の 対応の見直しや訓練への参加をお願いするなど、一番身近 な評価・検討機関として様々な分野からの意見を頂きなが ら、サービスの向上に生かしています。	
			(外部評価) 会議は、3事業所合同で福祉センターを利用し開催してお り、地域住民代表で民生委員の方や市の職員、地域包括支 援センター担当者等が出席している。現在ご家族には会議 案内はしていない。事業所からは、行事、利用者の状況、ヒ ヤリハットについて報告している。お大師マップ作成時には、 トイレの状況や道路状況等も話し合ったり調べて、利用者が お参りすることが難しいと思っていた場所にも、行くことがで きることが分かったようだ。	管理者は今後、「ご家族にも会議参加の声かけをしていき たい」と話していた。ご家族に会議内容を報告する等、会議の 目的や意義等を知ってもらいながら、参加を呼びかけてほし い。いろいろな立場の方が集まり、意見を聞ける会議を開催 できるよう、今後も工夫を重ねていかれてほしい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んでい る	(自己評価) ・定期的に開催される地域ケア会議や運営推進会議で意見 交換を行ったり、必要時には支所担当者へ直接相談したり、 必要時にはサービス担当者会議を開催し家族と市役所職員 や地域包括支援センター担当者等と一緒に協議を行い、困 難事例への対応を行っています。	
			(外部評価) 運営推進会議時には、市の担当者から食中毒、熱中症、ダ ニ対策等についてのパンフレットをもらったり、市の保健師に は、利用者の病気のケア等について相談したり助言をもら う等している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解し ており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしない ケアに取り組んでいる	(自己評価) ・毎年開催されている「愛媛県地域密着型サービス協会」の研 修会へ参加し、身体拘束と虐待防止に関する知識を深め、 研修内容は全体ミーティング等で他スタッフにも報告し周知 するとともに、再度事業所内部研修会でも、年に1回同様の 内容での研修を行っています。そうする事でスタッフみんな が利用者さんの思いを大切に、拘束しない様なケアを実施 し、自由な生活を支える様にしています。	
			(外部評価) 職員は、内・外部で研修して身体拘束をしないケアに取り組 んでいる。調査訪問日、玄関を開放していた。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ・身体拘束と同様、外・内部の研修に毎年必ず参加し、研修内容を全体ミーティングで他スタッフにも報告する際、再度虐待防止に対する意識を高めながら、事業所内での虐待行為が発生しない様に、意識統一を行っています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ・制度については理解できており、同法人内に成年後見制度推進事業・福祉サービス利用援助事業や心配事相談所等、必要時には各担当者と連携を取り、迅速に活用できる体制が整っています。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ・契約書、重要事項説明書、個人情報使用同意書、重度化に対する対応や看取りの指針等、提供するサービスについての説明を懇切丁寧に行い、利用者や家族にも十分理解して頂いた事を確認した上で契約の締結を行っています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ・2ヶ月に1回開催している運営推進会議で可能な限り家族や利用者さんに出席して頂いたり、年に1回家族会を開催したり、家族へのアンケート調査などを実施し、率直な意見や感想を教えて頂きながら、より良いサービスが提供出来る様にしています。 (外部評価) 2ヶ月に1度「ゆいの里だより」を発行しており、ご家族へ送付時には、担当職員から利用者の様子等をコメントにして同封している。足遠いご家族には、事業所に来てもらいたい旨を伝え、来訪時には出来るだけ長く居てもらえるよう、お話や雰囲気作りに努めている。これまで家族会は、年一回クリスマス時に行っていたが、今年は、夏祭り時に開催したいと考えている。ご家族に少し前に集まっていたき、食事しながら、ざっくばらんにお話する会にしたいと話していた。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ・毎年事業所長との面接を行い、率直なスタッフ個々の意見を聞く場を設けています。またミーティングや個別に出来るだけスタッフみんなの意見を聴取し、業務に反映させる様にしています。	
			(外部評価) 月1回のミーティング時には、センター長会での内容伝達、衛生委員からは、働きやすい職場作りについての話し合いの内容報告等も行っており、職員の意見を出す機会になっている。職員で話し合い、高齢者に合ったテンポや曲選びをして、理学療法士に相談しながら、全身を動かす「ここはれ（心晴れ晴れ）体操」と口腔体操を作っている。職員がモデルになりDVDも作成しており、昼食前にみなで体操をしていた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) ・代表者や支部長は、職員との交流がもて、業務や悩みを把握できている。人事考課等を取り入れ、業務に対し目的意識を持ち、計画的に評価したり、資格取得に向けた支援や、スタッフみんなが向上心を持って働ける様に、職場環境の整備や労働条件等の相談や対応を行っています。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ・スタッフみんなの研修計画を立て、計画的に内部・外部研修に参加し、その内容をミーティングで他のスタッフに伝える事で、より個々の知識や技術の向上が行え、働きながらひとりひとりの必要なスキルアップを行っています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) ・地域密着型サービス協会が実施する研修や相互研修、グループホーム交流会への参加等へ定期的に参加しながら、同業者との交流や意見交換を行い、スタッフみんなが協議しながらサービスの質の向上に向けて取り組んでいます。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ・初回面接から本人の思い・意見などを出来るだけ傾聴し、その思いに寄り添いながら、本人が望む理想の生活を出来るだけ早い段階で調整する事で、初期に抱く環境変化による生活に対する不安や不満を解消でき、安心して日常生活が送れる様支援させて頂いています。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が 困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け ながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ・初回面接から家族の思い・意見などを注意深く確認し、本 人の思いを中心に家族の不安や不満も出来るだけ解消し、 本人・家族がお互いに望む生活が送れる様支援させて頂い ています。定期的に家族へも電話やお便り・手紙を添え、状 況の報告を行っています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族 等が「その時」まず必要としている支援を見極 め、他のサービス利用も含めた対応に努めてい る	(自己評価) ・本人や家族が、現在何に困り何を解決する事で生活をどの ように変えたいのかという本意を見極め、心身の状況や介護 状況、その他本人の希望や家族の要望を踏まえ、適切な サービス利用へ結び付けられる様に対応しています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、暮らしを共にする者同士の関係を築いてい る	(自己評価) ・スタッフと一緒に食事を作ったり、洗濯物を干したり、自分 の部屋を掃除したりと、声かけや見守りしながら、安心して家 事をする事で、残った身体機能を十分に発揮し、本人の活 動意欲の低下を予防しながら、楽しく、他利用者さんとも仲 良く過ごす事が出来る様に対応しています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本 人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ・誕生会やクリスマス会・夏祭り等、随時家族にも案内し、本 人と共に祝い、共に楽しみ、一緒に過ごす時間を大切に、出 来る限り事業所内であった事や行事などお便りや電話で報 告しながら、家族が少しでも本人を身近に感じる事が出来る 様に支援しています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めてい る	(自己評価) ・今までの馴染の生活について、利用当初から本人が地域 に暮らす一員としての役割や参加状況等を聴取し、その関 係を出来るだけ切り離さない様、地域行事や参加していた 定例会・敬老会、行き慣れた理容室等、今迄通りのつながり を変わりなく継続できるように支援しています。 (外部評価) 娘さんの声を聞くと落ち着く方があり、ご家族が用意した携 帯電話を職員が充電等して、利用者から希望があった時に 娘さんに電話して取り次いでいる。入居後、職員の送り迎え で近所の散髪屋を利用するようになり、馴染の関係ができて いるようなケースもある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ・その時の状況に応じて、テーブルや席の位置を変更したり、利用者さん同士が、仲良く穏やかに交流できる環境を整えたり、コミュニケーションがとり難い方や苦手な方には、職員が間に入り、話を繋いだりしながら、良好な人間関係が継続し、みんなが仲良く過ごせる場を提供出来る様に対応しています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ・利用終了後も必要時には家族の相談に応じたり、今までの関係性を継続し、家族も事業所を身近に感じて頂ける様に心掛けています。	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ・常に利用者個々の言動や表情・行動に注意し、寄り添いながら、信頼関係を築き、顕在化しているニーズは当然、潜在化しているニーズに気づき、その不安や不満を解消する事で、安心して日常生活が送れる様に対応しています。困難な状況にはカンファレンスなどでみんなで協議し、統一したケアを提供しながら対応しています。 (外部評価) 入居時、利用者やご家族から「基本情報シート」に沿って情報を得ており、その情報は、お話す際に活かしている。昔の友達や地域のことを話題にすると、お話が弾むようだ。地域の方言で話す方が話しやすい利用者には、方言で話しかけるようにしている。利用者からの情報は、「申し送りノート」やカンファレンスで伝達して職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ・本人や家族、友人や知人等から、今までの生活の様子や馴染の生活について確認し、知れた情報については職員同士共有し、会話の中や本人が望む生活環境の整備に役立てる様に努めています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ・一人ひとりの生活習慣、生活リズムを大切にしながら、集団生活の中に居ても、そのリズムが極度に乱される事無く、スタッフが一緒に調理や掃除、洗濯など日常的に行っていた事を行いながら、残存機能の維持・向上を行いながら、その人らしい一日が送れる様に支援しています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ・毎月のカンファレンスで1ヶ月間の心身の状況や生活状況等の確認を行い、介護計画の見直し(モニタリング)や、新たなニーズの調整を行いながら、スタッフみんなで統一したケアが出来る様にしています。本人や家族の意向を随時確認しながら、カンファレンス内容を考慮した介護計画書(ケアプラン)の作成を行っています。 (外部評価) 基本方針に沿って、利用者個々に役割意識を持って生活できるよう計画作成に取り組んでいる。ご家族から、「もっと手伝いをさせてほしい」と要望があり、これまでの活動に畑仕事等も加えて支援しているケースもある。介護計画は、入退院等がない場合は、3ヶ月ごとに見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ・ケア記録には、記入日時や見直しやすい様にキーワードを記入しています。ケア内容とスタッフの気づき、介護状況、考察などの記入欄を分け、見返ししやすい様に個別に記入しています。全体を把握しやすい様に日誌や健康チェック、その他スタッフみんなが把握しやすい様に送りノートなどに個別に必要なと思われる情報について記載し、みんなで情報共有しています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ・本人や家族の希望や要望、その時々気持ちの変化に合わせて、本人が自由に選択し自由に行動できるよう配慮しています。その時の心身の状況やニーズに合わせてケア内容を変更してみたり、個々の意見を随時確認しながら、希望に合わせ柔軟な対応が出来る様にしています。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ・色々な馴染の行事(お大師参り、春の大祭、秋祭り、敬老会等)への参加により、近所の友人や知人との交流を行ったり、家族の協力を得ながら、法要やその他地域行事への参加を行い、慣れ親しんだ地域との交流を行いながら日常生活にも張りが持て、意欲的に日常生活が送れる様支援しています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) ・本人や家族が望む医療機関での受診・治療等を受ける事が出来ている。都合によっては往診による定期的な診察を受ける方や、今まで行き慣れた病院へ家族が通院の援助を行ってくれたり、納得がいく医療機関での受診が出来ている。また、各医療機関とも、随時連絡調整が行え、必要時には主治医からの意見も頂ける様な体制作りが出来ている。 (外部評価) 入居前からのかかりつけ医に受診する利用者がほとんどであり、受診の付き添いはご家族が行っている。緊急時やご家族の都合によって職員が支援している。状態によっては、管理者が病院に出向いて現状報告するようなこともある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) ・健康状態や一般状態その他気付いた事については看護師と相談し、必要があれば受診し対応したり、看護師からも治療や処置に関する必要な指示を受けながら、適切に健康管理が出来ている。緊急時の対応や必要時には家族に判断を仰ぎながら、迅速に対応できる体制が出来ています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) ・常に入院時には定期的に心身状況の確認を行ったり、必要な情報については本人若しくは家族の了解を得て提供したり、治療・看護が容易に受けられる様に、入院機関との連携を取っています。退院時にはサマリーに基づいて、治療の継続・リハビリの必要性等を確認し、退院後も安心して日常生活が送れる様に医療機関との連携を取っています。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ・契約時に本人や家族に、重度化や終末期ケアについて事業所で出来る事等を文書により説明し、本人・家族としての意向の確認を行っています。その意向に基づき、本人・家族が望む生活が継続できるように、主治医等、関係機関との連携を取り、本人・家族が安心した日常生活が送れる様支援しています。 (外部評価) 利用者の状態変化時に、ご家族や関係者で話し合いながら利用者の終末期を支援したいと考えている。「最期は病院には行きたくない」と言われる利用者のご家族の中には、「利用者本人の希望を尊重したい」と思っている方もある。昨年は、ご家族と相談しながら医師の往診と夜間はご家族が泊まる等して、事業所で看取りを支援した事例がある。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) ・全職員を対象にAEDの使い方と救急救命処置に関する研修を受け「普通救命講習修了証」の発行を受け、2年に1回更新しています。それ以外に内部・外部研修での急変時の対応などの研修にも積極的に参加し、ミーティング等でも急変時の対応の在り方についてみんなで相談しながら、迅速かつ適切な対応が冷静に行えるようにしています。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) ・毎年1回は近隣住民・関係団体(市役所、消防署、警察署、地元消防団)に協力を得ながらの夜間の火災を想定しての避難訓練と、事業所単位で津波や風水害を想定した避難訓練を実施しています。回を重ねる度に避難時間も短縮され、スタッフの動きや応援者への指示の内容についても的確に出来ています。 (外部評価) 年2回、避難訓練を実施している。内1回は、地域と合同で消火避難訓練を行っており、今年6月の実施時には、消防署、地域住民、地域の自主防災組織の方と、利用者も参加された。地域の方は事前に避難経路を確認したり、車椅子の使い方等を練習された。避難口である玄関が台所に近いこともあり、居間から中庭に出られるようなスロープを設置して「非常出口」を作っている。水や米の備蓄と合わせて非常用品を用意しており、現在入れ物が手提げであるが、今後はリュックに替える予定がある。食料は法人で、3日分備蓄してある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ・日々の関わりの中で、常に個人を尊重し、スタッフみんなで決めた基本理念の指針にも定めている「自分らしさを大切に、その人の思いを共有します」の様に、スタッフが思いを共有できるような人間関係を構築しながら、優しく穏やかな関わりや声かけを大切に行っています。 (外部評価) 台所に立つことに遠慮がちだった利用者に「みなのコップを集めてくれませんか？」とお願いしたり、洗ってもらう等、台所仕事にかかわるような場面作りに工夫し、感謝の気持ちを伝えるよう取り組んだ事例があり、現在は、ご自分から「何かしましょうか」と台所に入って来られるようだ。調査訪問時には、台所仕事を終えた利用者に、職員が、「ありがとう、お陰で助かりました」とお礼を言っていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ・出来るだけスタッフ側からの指示や提示でなく、利用者個々から関わりの中で感じられる思いや希望を最大限に引出し、安心して行動出来る様支援しています。普段から信頼関係の構築を行うため、潜在的ニーズを引き出す為に、思いに同感し、訴えを傾聴しながら、利用者個々の理解を注意深く行っています。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ・利用者の会話の輪の中に入り、今日一日をどのように過 ごしたいか等、直接聞いたり、提案した事への反応を見なが ら、みんなで楽しく過ごせるような活動を中心に一日過ごせ る様にしています。過去の行事やイベント・催し物等の内容 を検討しながら、より楽しく参加できる様に検討しています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	(自己評価) ・定期的に家族の協力を得ながら、本人の意見を尊重し衣 替えを行ったり、季節に合った服装・外出時の衣類の選定等 は本人の意見を尊重しながら、確認しています。散髪等も時 にスタッフが声かけしながら、本人の思いを尊重し、通いな れた美容室での散髪を行っています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ・好きな食べ物や嫌いな食べ物を個々で確認し、食べやすい調理 にしたり、可能な限り食材の下ごしらえや味付け等も、利用者に確 認しながら楽しく食事が摂れるようにしています。環境にも気を付 け、気候の良い時には屋外で食べたり、外食したり、気持ち良く美 味しく食事が出来る様に配慮しています。片付けも茶碗を洗ったり お盆を拭いたり、テーブルを拭く等もみんなで協力して行っていま す。 (外部評価) 法人内の3事業所が持ち回りで献立を立て、食材は週2回配達して もらっている。チラシを見て、近くのスーパーへ利用者と買い物に 行くこともある。事業所の台所で調理しており、利用者の希望や材 料を見て献立を変更するようなこともある。利用者は、台所で職員と 一緒に食事の準備や片づけを行っている。調査訪問時には、エプ ロンを着け台所でゴマを擦ったり、野菜を切ったりしている利用者 の様子が見られた。又、食後は、食器を洗ったり、拭いたり、テー ブル拭きをされていた。時々、外食する機会を作っており、管理者は 「今後、ご家族も誘って島外へも出かけてみたい」と話していた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) ・一人ひとりの摂取量を把握し、個別にご飯の量などを調整してい ます。おやつや適宜水分補給等も行い、暑い時期などの脱水・熱 中症予防等を行っています。今までの食習慣も大切にしながら、食 事についての感想を常に確認し、調理の際に参考にしています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) ・毎食後、口腔ケアを行っています。口腔内に異常を感じたり、義 歯の装着状況を確認しながら、必要時には訪問歯科診療の無料 での歯科検診を受けて頂いたり、治療が必要な場合には本人・家 族と相談しながら行きつけの歯科医へ受診頂いたりしながら、口腔 ケアを行っています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) ・出来るだけトイレでの排泄を徹底しています。尿漏れや失禁のある方にも、出来るだけ床上での排泄は無くし、排泄パターンを個々で把握し、夜間以外は定時にトイレの声かけをしたり、必要な方には一緒にトイレ誘導させて頂きながら、自立した排泄動作が継続出来る様支援しています。	
			(外部評価) 個々の排泄パターンを把握して、トイレ誘導や声かけをしている。夜間おむつを使用する利用者也、昼間はトイレで排泄できるよう誘導等して支援している。夜間トイレの場所が判らないため、うろろろするような方には、「トイレ」と大きく貼り紙したり、明かりを点けておくことで迷う回数が減っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) ・便秘予防で毎朝食物繊維を多く含む野菜や果物を使ったスムージーを飲んで頂いたり、砂糖の代わりにオリゴ糖等を使用したり、屋外を散歩しながら腸の蠕動運動の促進を行い、便秘予防をしています。便秘のひどい方には医師の指示のもと、緩下剤を使用しながら、常に排便状態(量や性状)を確認しながら調整しています。	
			(外部評価) ・最低でも週に3回以上は入浴できる機会を確保し、声かけしたり希望を聞きながら入浴して頂いています。入浴も出来るだけ本人のペースでゆっくり出来る様、個浴とし、着替えや洗身・洗髪で出来ない部分は介助しながら、安全に安心して入浴して頂き、気持ち良く過ごして頂いています。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) ・最低でも週に3回以上は入浴できる機会を確保し、声かけしたり希望を聞きながら入浴して頂いています。入浴も出来るだけ本人のペースでゆっくり出来る様、個浴とし、着替えや洗身・洗髪で出来ない部分は介助しながら、安全に安心して入浴して頂き、気持ち良く過ごして頂いています。	
			(外部評価) 同性介助を希望する利用者に対応している。浴室の入り口には、温泉に浸かってのんびりしている絵を貼って、利用者が入浴をイメージしやすいように工夫している。原則入浴は週3回、午後から支援するが、お風呂好きな方は毎日入る方もある。「今日はしんどいから」と断る方には無理強いせず、ご本人の気分等もみながら支援している。浴槽内や浴槽の周りには滑り止めマットを敷いて、安全に入浴できるよう整備している。シャンプーやボディソープは個別に用意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ・ドアの開閉や空調で湿温・湿度を調整しながら、本人にも就寝前に湿温等を確認しながら適度な環境でゆっくり休める様にしています。採光についても、睡眠を妨げない様に希望に合わせ、真っ暗にされる方や不安な方については保安球をつけたりしながら、安心して睡眠出来る様に個々で調整しています。	
			(外部評価) ・最低でも週に3回以上は入浴できる機会を確保し、声かけしたり希望を聞きながら入浴して頂いています。入浴も出来るだけ本人のペースでゆっくり出来る様、個浴とし、着替えや洗身・洗髪で出来ない部分は介助しながら、安全に安心して入浴して頂き、気持ち良く過ごして頂いています。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ・内服薬については確実に服薬出来、治療効果が確認出来る様、服薬時にスタッフが忘れない様に手渡している。内服薬の説明書を個々にファイリングし、薬の効能や副作用がいつでも確認出来るようにしています。症状や病状については看護師が主治医と相談しながら内服薬の調整なども行っています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ・歌が好きな方はみんなをリードして歌ってくれたり、洗濯物を干したりたたんだりしてくれる方には一緒に手伝ってもらったり、男性には屋外での力作業を能力に合わせて手伝ってもらいながら、個々に役割意識を持って頂ける様に声かけをしています。レクリエーションやゲーム等にも参加して頂き、楽しい時間を過ごしながら気分転換を行っています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ・気候の良い時期には、出来るだけ毎日、事業所周囲や近くを散歩しています。また、定期的に近所の商店へ買い物に出かけたり、お祭りや地域行事に参加したり、ドライブで島内の景色を見たり、道の駅や公園などでおやつを持って散策に出かけたりする事で、外出の機会を確保し、気分転換や季節を肌で感じて頂ける様な援助を行っています。 (外部評価) お天気の良い時には、事業所周辺の散歩や近くの商店に買い物に出かけられるよう支援している。又、景色のよい場所を探してドライブしたり、公園に行ったりしている。利用者は「きれいなね、気持ち良いね」と喜ばれるようだ。地域の方がよくお参りする、利用者にも馴染みの場所である近くのお大師さんにも出かけられるよう支援している。	利用者個々の行きたい所やなつかしい場所等も探りながら、利用者の生活の場を拡げていけるよう、取り組みに工夫を重ねていかれてほしい。職員は「もっと外へ出て行き、お寺巡りをしたり、バラ公園等へも行きたい」と話していた。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ・個人でお小遣いを持たれている方は、必要なものは一緒にお店に行き自分の目で見て、自分で支払いして頂いています。現金を預かっている方でも、スタッフが見守りながら、支払い時に現金を渡し支払いをお願いしながら、お金を使う事を忘れない様な援助をしています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ・必要時には事務所の電話を使って頂いたり、必要な方には家族と相談し、個人用の携帯電話を事業所に置いて頂き、希望時にはいつでも電話できる状況にしていたり、通信や手紙(季節のお便り等)のやり取りが自由に行えるようにしています。	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ・季節の草花と一緒に飾ったり、掲示物等も季節に合わせて交換しています。玄関や廊下、ホール等共用部分についてはスタッフが確認し、毎日定期的に掃除したり、気付いた時には直ぐに片付ける等の対応を行いながら気持ち良く過ごして頂けていると思います。室温や湿度も常に確認し、適温・適湿を保ちながら居心地のいい環境作りを行っています。	
			(外部評価) 玄関は、正面が階段で、横からはスロープを使って入れるようになっている。建物は和風で天井は梁が見え、高くゆったりとしている。天窓からは自然光が入る。居間の窓には遮光ネットを掛け、西日を遮るようにしている。玄関や居間には紫陽花、キンギョソウ等、色々な季節の花が飾られていた。居間の壁には、利用者の「笑顔の写真」や花紙と貼り絵で作ったバリエーション、干支のヒツジ等が貼ってあった。昼食後には、マッサージ器を使用したり、職員と一緒に洗濯物を干している利用者の様子が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ・テレビの前にソファを置いて、みんなで一緒にテレビを見たり、会話したりとみんなでくつろぐ場所があったり、廊下にソファを置いて、外の景色を眺めながら、ひとり、若しくは少人数で過ごせる場所や、少し横になる場所も確保しています。体調が悪い時等は居室を利用したり、その時々々の心身の状況に応じて心地良く過ごせる様な環境作りをしています。	
			(外部評価) 各部屋には、コルクボードを設置して外出時やイベント時の写真を貼って、ご家族来訪時の話のきっかけにもなるよう工夫している。居室の電気の紐は、利用者の手が届きやすい長さに調節している。ソファやテーブル、テレビを持って来ている方もある。歌が好きな方は、ラジカセの操作を職員がサポートして歌を聞きながら過ごせるよう支援している。若い頃行った旅行の写真を貼っていたり、息子さんを忘れないように来訪時には一緒に写真を撮って貼り、時々話題にするような支援もしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ・それぞれが使い慣れたタンスやソファ・ベッド等、必要な方についてはテレビや冷蔵庫、時計等本人が使い慣れた物を持参頂き、使いやすい様に配置して頂きながら、安全に安心して過ごせるような居室環境作りを行っています。家族からの贈り物や写真も飾ったりしながら、居心地の良い居室である様、家族とも相談しながら調整しています。	
			(外部評価) 各部屋には、コルクボードを設置して外出時やイベント時の写真を貼って、ご家族来訪時の話のきっかけにもなるよう工夫している。居室の電気の紐は、利用者の手が届きやすい長さに調節している。ソファやテーブル、テレビを持って来ている方もある。歌が好きな方は、ラジカセの操作を職員がサポートして歌を聞きながら過ごせるよう支援している。若い頃行った旅行の写真を貼っていたり、息子さんを忘れないように来訪時には一緒に写真を撮って貼り、時々話題にするような支援もしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ・トイレが分からない人の為に大きく見えやすい様に看板を作ったり、みんなが見える場所に当日の年月日や曜日を掲示したり、机や椅子の配置、それぞれの物品の配置や、必要箇所の手すりなどを利用し、安全に室内の移動が出来る様に常に確認しています。	